

研修制度

研修制度【内部教養】

峡北消防本部では、業務の遂行に必要な知識・技術などを、職務経験に応じて習得するための各種研修制度が設けられています。

OJT 制度

実際の業務を通じて1対1で若手職員を指導する研修です。経験豊富な先輩職員が、次の年代の職員に知識や技術を伝達します。

年間を通して丁寧な指導が可能のため、若手職員の業務遂行能力向上につながります。



若手職員教育訓練

採用から2・3年目、4・5年目、6・7年目の職員を対象に、グループごとに警防・予防・救急・救助について、専門的な知識を有する職員が指導者となり研修を行います。2年間を1サイクルとし、職務経験に応じて座学や訓練により研修を行います。

集合研修・訓練

職員が集合し、実科訓練やスライドによる症例検討・事例検討などを行い、知識・技術を全体で共有します。警防・予防・救急・救助など、各分野の経験豊富な職員による指導だけではなく、若手職員が経験した救急の症例、火災・救助事案などを発表することにより、若手職員のプレゼン能力の向上にも効果があります。



研修制度【外部機関での研修】

山梨県消防学校入校による研修

山梨県消防学校（中央市今福）に入校し、山梨県内の各消防本部から入校した訓練生と合同で研修を行います。

職務経験や職責に応じて、様々な研修を受講します。

- **初任総合教育（全寮制）**

採用後の4月から11月末まで、消防士としての心構えや、基礎的な知識・技術・礼式・法令などを学びます。

教育課程には、「救急科」が含まれており、救急隊員の資格を取得できます。

卒業後は、採用された消防本部に戻り、それぞれの消防署に配属されます。

- **専科教育**

職務経験や従事する業務の内容、職責などに応じて、より専門的な知識・技術などを習得するための教育課程です。

各専科教育課程より、入校期間が決められています。

主な専科教育：警防科・救助科・予防査察科・危険物科・火災調査科・幹部科など

- **特別教育**

現場活動に必要とされる特殊な技術を習得する過程です。

主な特別教育：水難救助研修・山岳救助研修・はしご自動車研修・救急隊長研修など



山梨県消防学校

山梨県中央市今福 1029-1

山梨県消防学校 HP より引用

<https://www.pref.yamanashi.jp/shobo-gk/>

初任総合教育 実技訓練発表会の様子



救急救命研修所入校による研修

救急救命研修所に入校し、全国の消防本部から入校する研修生とともに、救急救命士に必要な専門的知識・高度な技術を習得し、救急救命士の国家資格取得のための研修です。

入校後は全寮制で約7カ月の研修を受け、3月に行われる国家試験合格を目指します。

救急救命研修所は、一般財団法人 救急振興財団が所管する2か所の研修所です。

- 救急救命東京研修所：東京都八王子市
- 救急救命九州研修所：福岡県北九州市

救急救命研修所入校は、希望する職員が多く狭き門ですが、自分の努力で切り開くことは可能です。

キャリアアップ

外部機関での研修

専門的な知識・技術を習得し、各分野の業務マネジメント能力や職員の指導能力の向上などを目的に、消防大学校などの外部機関でより高度な教育を受けることができます。

消防大学校入校

消防大学校（東京都調布市）に入校し、専門的な知識・技術だけでなく、幹部として必要な組織マネジメントなどについて高度な教育・訓練を受ける研修です。

教育課程には、幹部科・上級幹部科の総合教育や、警防科・救急科・救助科などの専科教育があります。

研修を受講した職員は、職員に専門的な知識・技術を伝達し、消防本部全体のレベルアップのために活躍することができます。

指導救命士の認定

消防大学校の救急科、または救急救命九州研修所の指導救命士養成研修を受講し、山梨県メディカルコントロール協議会から、指導救命士として認定を受けた救急救命士です。

他の救急救命士や救急隊員を指導するだけでなく、訓練の企画運営やメディカルコントロール協議会の業務など、救急業務のマネジメントを行い、消防本部の救急のレベルアップのために活躍することができます。

外部機関への派遣・消防本部間の人事交流

山梨県消防学校教官（派遣期間 3 年）

山梨県消防学校に消防教官として派遣され、県内消防本部から入校する訓練生の教育・訓練や、各教育課程のマネジメントを行う業務です。

派遣教官は多くの教育課程を担当し、訓練生の職務経験や階級も様々です。特に新人職員が入校する初任総合教育では、教育・訓練だけではなく、消防人としての考え方に大きく影響を与えられる、非常にやりがいのある業務です。

山梨県消防防災航空隊『あかふじ』（派遣期間 3 年）

消防本部から選抜され、山梨県消防防災航空隊に派遣されます。消防防災ヘリコプター『あかふじ』の航空隊員として県内全域の山岳・溪谷での救助や、林野火災などの各種災害に出動します。

消防防災ヘリコプターによる訓練は非常にハードで、航空法や気象・地形など多くの知識を必要としますが、消防本部の業務では経験することができない様々な災害に出動するため、非常にやりがいのある業務です。



県内消防本部との人事交流派遣（派遣期間 1 年）

消防本部間の知識や技術、組織体制などの情報共有などを目的に、山梨県内の消防本部と消防職員の人事交流による派遣を行っています。

派遣された職員は、派遣先の消防本部の一員として消防業務を行いながら、それぞれの消防本部の知識や技術、情報などを交換します。